

研究のプロとお母さん、二つの役割を生きる

日下部りえ (神戸大学大学院理学研究科生物学専攻 助教)

仕事の内容とやりがい

私は円口類(ヤツメウナギ)、真骨魚類(メダカ、ゼブラフィッシュなど)の骨格筋形態を作り出す遺伝子の仕組みを研究しています。我々ヒトを含む四足動物は複雑な骨格筋をもち、顔の表情や手足の動きなどの多彩な動きを支えています。一方で冒頭にあげた動物の筋肉は単純で、脊椎動物の祖先型の状況を残していると考えられます。脊椎動物の骨格筋が多様な形態と機能を獲得したこと、形態形成と分化過程での遺伝子の働きの関連を調べています。「この発見をしたのは自分で、世界で自分しか知らない生命のしくみなんだ!」という興奮を味わうと、もう研究の魅力に取り憑かれています。

仕事と家庭のバランス

小2、小4、中2の三人の子ども達と夫、五人家族で暮らしています。昼間は研究のことで頭がいっぱい、夕方には大急ぎで子供達を迎えに行き、私のもうひとつの「現場」である家庭の世話をします。非常に慌ただしい毎日ですが、周囲の方々の励まし、子供たちの笑顔は大きな力です。また、早起きが苦手な私をサポートし、朝の家事の大半を担当してくれる夫の存在は大きいものです。家庭では家族全員が休息する必要がありますが、まずは楽しい場所になりたいものです。一方で研究を続けるには国際的・長期的な視野にたった研究を続けるという意気込みが必要で、子育て中こそ時には日常を離れ、国内外の学会や研究会で研究仲間との意見交換をすることが大切だと思っています。

進路決定のきっかけ

高校での部活で生物部に入っており、顧問の先生が企画してくださる夏の臨海実習が素晴らしい経験となりました。民宿のひさしの下にちゃぶ台をおき、顕微鏡をならべて、海ですくってきたプランクトンを写生したり、ウニの人工授精をして受精卵が育って行く様子を観察しました。その後、自然人類学(サル学)や動物行動学に熱中した時期もありましたが、大学の学部3回生の時に発生生物学の講義を受けたことが転機となりました。最初は一個の細胞である受精卵が分裂を繰り返し、しまいには手足やいろんな臓器を備えた動物のからだになっていくのです。それは染色体の遺伝子に書かれている設計図に従っていること、また動物の進化というのはまさにこの設計図が少しずつ書き替わっていくこと、と知り、これだ!と思いました。

進路選択に対してのメッセージ

一応生物学を志して大学に入ったものの、かなりの紆余曲折を経て場所にいます。しかしすべては高校時代に古い顕微鏡で眺めた世界に対する感銘に始まり、自分の心を喜ばせるものを追求できたことが今の私につながっていると思います。若いみなさんも、急いで人生の目標を固める必要はありません。その時の自分の心に訴えるものに自然に引き寄せられてください。そしてこれだと思うものに出会ったら、失敗を恐れずに全力で努力してください。

<日下部りえ(くさかべりえ)プロフィール>

2000年3月 北海道大学大学院理学研究科生物科学専攻博士後期課程修了
 2000年4月～ 日本学術振興会特別研究員PD
 2003年4月～ 独立行政法人理化学研究所 研究員
 2007年11月～ 神戸大学大学院理学研究科研究員
 2010年4月より現職(理化学研究所客員研究員兼任)

